

ハハコグサ (母子草)

名前の意味^{いみ}：昔の名前、「ほうこぐさ (蓬子草)」がなまって、ハハコグサになり、それに母子の字をあてた。

分類：双子葉類、キク科、ハハコグサ属

(キク科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい空き地、道ばた、畑

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：地面を丸く覆^{おお}う楕円形の葉、葉の両面は白い、花は黄色。

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数^{ごうべん}：合弁、5裂^{れつ} (小さくてよくわからない)

花の時期：4 - 5月

食べ方^{きざ}：刻んでおかゆに入れて食べる。春の七草の「おぎょう」はハハコグサのこと。春の七草^{ななくさ}はセリ、ナズナ、オギョウ (ハハコグサ)、ハコベラ (ハコベ)；ホトケノザ (現在のホトケノザではなくコオニタビラコを指す)、スズナ (カブ)、スズシロ (ダイコン) の七種^{きゅうれき}。旧暦 (昔のカレンダー) の1月7日^{ななくさ}に七草をいれた粥^{かゆ}を食べるという習慣^{しゅうかん}にもとづいている。現在の暦^{こよみ}では1月の終わりから2月の後半ごろにあたる。

見分け方：セイタカハハコグサとチチコグサモドキは花が茶色い。

ウスベニチチコグサとウラジロチチコグサは花が赤紫色。チチ

コグサは葉が細くて茎の葉が少なく、茎の先端^{くき せんたん}に花が集まる。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)